



発行 徳島市かちどき橋1丁目41番地 TEL 088-622-8158 FAX 088-626-5411  
 URL : <http://www.toku-forest.com/> E-mail : [info@toku-forest.com](mailto:info@toku-forest.com)



大鳴門橋



Contents

新年のご挨拶 (県森連・代表理事会長) .....	2
平成25年年頭挨拶 (全森連・代表理事会長) .....	3
2012国際協同組合同年「協同組合同年の開催」 .....	4
JForest 国際協同組合同年記念大会 .....	5
平成24年度第1回森林組合役員(監事)研修会 .....	6
山と木と緑のフェア2012 .....	7
徳島県知事へ表敬訪問 .....	7



## 新年のご挨拶

徳島県森林組合連合会

代表理事会長 杉 本 直 樹



新春を迎え謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様方におかれましては、お健やかな新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

また、日頃より本会運営につきまして、格段のご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、欧州の経済危機をはじめとする金融不安や新興国経済の減速を受け、世界経済の先行き不透明感が強まっており、我が国においても、財政問題や長引くデフレ等に加え、電力不足が重なるなど、大変厳しい1年となりました。

また、東日本大震災からの復興が急がれる中、我々林業界においても復興に必要な木材の供給や復興支援に努めて参りましたが、残念ながら政治の停滞等により復興が進んでいないのが現状であります。

このような状況の中、先に行われた衆議院選挙において政権交代がなされ、新政権が発足しましたが、今後、新政権に対しては、復興問題や経済対策をはじめとする山積した問題に早急な対策を講じていただくとともに、「森林・林業再生プラン」の確実な実行に向けて期待しているところであります。

一方、徳島県においては「徳島県森林整備加速化・林業飛躍事業」が新たに3年間延長されたことを受け、これまでに引き続き、間伐をはじめとする森林整備の加速化や高性能林業機械の導入等が図られたほか、「次世代林業プロジェクト」の推進につき、県のご指導を賜りながら、新間伐システムや架線系の主伐システムの普及と定着、合板やチップ用材としてのB・C材の安定供給体制の確立及び供給量倍増に向け、森林組合系統が一丸となり取り組んでいるところであります。さらには、このたび県の誘致により、国産材を使用し、製材から乾燥までを一貫して行える製材工場が建設される運びとなり、平成26年4月の稼働を目指し、今春より工場建設に着手する予定とお聞きしております。これにより、従来のB・C材に加え、新たにA材の受入工場が新設されることとなり、今後、大きな期待が寄せられる供給量倍増の要請にしっかりと応えていかなければならないと考えているところであります。

また、去年は国連で定められた「国際協同組合年」であり、協同組合組織として新たな気持ちで、森林の持つ諸機能の発揮や利用を通じた事業展開を図ったほか、森林組合系統運動「3rdステージ 国産材の利用拡大と森林・林業再生運動」については徳島県のプロジェクトと整合性を持って組織体制の強化と事業展開に努めているところであります。

本会といたしましても、引き続き国・県・市町村・関係機関等のご指導とご支援を賜りながら、連合会の果たすべき機能と役割を十分発揮し、森林組合の発展に資することができるよう、組織・事業改革に取り組んで参る所存であります。

最後になりましたが、森林組合系統の益々の発展と、組合員の皆様方のご健勝を心から祈念いたしまして新年のご挨拶といたします。



## 平成25年 年頭挨拶



全国森林組合連合会

代表理事会長 佐藤重芳

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

皆様方には常日頃から森林組合系統活動に特段のご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

一昨年の東日本大震災と原子力発電所事故から一年十ヵ月が経過しようとしています。被災地での復興へ向けたご腐心にも拘らず、国政の混迷もあり残念ながら復興は道半ばの状況です。森林組合系統では、犠牲者の方々の遺した思いの上に築いていく新たな国造りの一助となるよう、復興木材の供給等山側からできる復興支援に引き続き取り組んでまいります。

昨年は国連「国際協同組合年」であり、森林組合系統では十月に「JForest国際協同組合年記念大会」を開催いたしました。この大会は、森林組合系統が山村地域社会に根差した協同組合として、持続可能な社会を目指し協同組合間連携を強化しながら地域組織、政府・地方自治体との協働を促進し、地域経済・山村社会のリーダーとしての役割を担っていくことを誓う意義あるものとなりました。

森林組合系統では、平成二十三年度から『国産材の利用拡大と森林・林業再生運動』に取組み、政府の「森林・林業再生プラン」とも歩調を合わせながら、十年後に民有林森林整備の七割以上、国産材供給量の五割以上を担うことを目標に、提案型施業集約化施業や低コスト化を図りながら国産材安定供給の為の基盤づくりなどを進めているところです。

しかしながら、昨年来の丸太価格の暴落によりこの実践が困難を伴うものとなっています。かつて経験したことのない下落幅と価格水準により組合員の暮らしや組合経営は大変な打撃を受けております。また、原発事故による放射能汚染問題も森林経営や就業、森林除染など風評被害を含め深刻なものとなっています。

また、環太平洋経済連携協定への交渉参加問題が国論を二分しています。我が国の林業関係者は、関税撤廃による影響を身をもって経験しており、森林組合系統は、交渉参加に断固反対の立場です。我が国の第一次産業全体が同じ轍を踏むことになれば、山村地域社会の崩壊は避けられず、森林が国民に提供してきた公益的機能の維持も困難になるのではないかと懸念しています。

一方で、公共建築物木材利用促進法や再生可能エネルギーの固定価格買取制度等国産材の利用拡大に向けた制度が整えられてきました。森林組合系統では、これを実需拡大の好機と捉えており積極的な展開を行ってまいります。

また、木材価格問題についても全森連内にプロジェクトチームを立ち上げており、森林組合系統の全国ネットワークを活かした「量の力」により国産材価格の安定化と競争力の強化を図り、持続可能な立木価格が実現できるよう鋭意検討を進めております。

本年は、森林組合系統が抱えてきた懸案の解決に道筋が付けられるよう全力を挙げて取り組んでいく考えであります。

結びになりますが、本年が皆様方にとり良い一年となりますようご祈念申し上げますとともに、森林組合系統の飛躍の年となりますよう皆様の一層のご支援、ご協力をお願いし、新年のご挨拶といたします。

# 2012国際協同組合年 「協同組合まつりの開催」



開会式

2012年は国際協同組合年にあたり、本県においても「2012国際協同組合年とくしま実行委員会」(J A徳島中央会、J Aバンク徳島信連、J A全農とくしま、J A共済連徳島、J A徳島厚生連、徳島県森林組合連合会、徳島県漁業協同組合連合会、徳島県生活協同組合連合会、社団法人徳島県労働者福祉協議会(順不同))を設立し、10月28日(日)に「2012国際協同組合年 協同組合まつり」を徳島市の藍場浜公園で開催しました。

開会式では、実行委員長の荒井義之氏(J A徳島中央会会長)より「現代社会が抱える問題と照らし合わせながら、協同組合の果たしている役割や価値について述べると共に大勢の県民の皆様へ協同組合について知って頂き、今後も認知されるような取り組みを行っていききたい」とした挨拶がありました。

イベント会場となった、藍場浜公園では70余りのブースが出店し、協同組合についてのパネル展示、特産物販売、模擬店等が行われ、本会も木製品等の販売を行い、地域住民など多くの方が来場しました。



イベント会場



県森連ブース

また、阿波観光ホテルにおいて記念講演会を開催し、福島県生活協同組合連合会会長の熊谷純一氏による「『福島原発事故から見てきたもの』～協同組合の役割～」をテーマに、協同組合関係者や一般の方を含め約200人が参加し、盛大な協同組合まつりとなりました。



記念講演会



四国放送でもTV告知

2012国際協同組合年 協同組合まつり  
あさって(日) 午前10時～午後3時 入場無料  
徳島市 藍場浜公園 東側 ☎088-634-2300

# JForest国際協同組合年記念大会

平成24年10月25日、全森連主催によりJForest国際協同組合年記念大会が、明治神宮会館（東京都）において開催され、全国の森林組合系統をはじめ、林野庁、友好団体等、約1,000人が参加しました。本県からは、表彰者の方々を含め8名が出席しました。

本年が国際協同組合年であるため、例年の森林組合大会と併せて開催されたものです。

綱領唱和、全森連佐藤会長の主催者挨拶、林野庁長官等の来賓挨拶のあと、情勢報告、意見表明があり、その後、熊本県森連の前川会長がJForest国際協同組合年宣言し、採択されました。

また、大会に先立ち、林野庁長官表彰（特別表彰）・全森連会長表彰（特別・功労者表彰）が行われ、本県からは下記の方々が受賞されました。

引き続き、「NPO法人 森は海の恋人」理事長の畠山重篤氏による記念講演が行われました。畠山氏は平成24年2月に国連・森林フォーラムの「国際森林ヒーローズ」に選ばれています。講演の中で、畠山氏は「フォレストヒーローズ（森の英雄）は、森林組合系統の皆さんの力があってこそ頂いた賞です」と述べておられました。

## ◆全森連会長表彰・功労者表彰（敬称略）

1. 森林組合役員  
榊野 千秋（木頭森林組合）
2. 森林組合職員  
阿佐 尚和（三好東部森林組合）
3. 森林組合作業班員  
小藪 賢二（海部森林組合）  
岡部 数男（木頭森林組合）  
竹岡 文男（木頭森林組合）  
松島 伯徂（徳島中央森林組合）  
中田 哲司（徳島中央森林組合）  
粟飯原啓史（徳島中央森林組合）



大会の様子

## 大会宣言

国連は、協同組合が貧困削減・仕事の創出・社会的統合に果たす役割に着目し、協同組合の認知度を高め発展を促すため、2012年を国際協同組合年として定めました。本年6月にブラジルで開催された「持続可能な開発会議（リオ+20）」においても、参加国が署名した成果文書『私達が望む未来』の中で、持続可能な開発における協同組合の重要性を述べています。

我が国においては、東日本大震災を契機とした支援の輪の広がりから共助・協同への関心が高まり、協同組合運動の原点である相互扶助の必要性が再認識されています。

JForest森林組合は、森林法での制度創設以来、地域林業の協業化に取り組むとともに作業班の組織化と木材・林産物の系統共販体制を築いてきました。今日、民有林森林整備の5割以上、国産材供給の4割を担うなど、森林整備・保全、林業技術者の育成、木材供給において中心的な役割を果たし、これら活動を通じて、地球温暖化の防止、国土の保全、水源の涵養、生物多様性の保全など国民の安全・安心や地域経済の活性化に寄与しています。

こうした私達の活動の成果は、今後ますます重視され拡大されるべきであり、その役割を果たすために一層の組織強化が必要となっています。JForest森林組合は、山村地域社会に根差した協同組合として、持続可能な社会をめざして協同組合の仲間たちと手をつなぎ、地域組織、政府・地方自治体との協働を促進し、地域経済・山村社会のリーダーとしての協同組合の役割を担っていくことを、ここに宣言します。

平成24年10月25日

JForest国際協同組合年記念大会

# 平成24年度第1回 森林組合役職員（監事）研修会

● 日時：平成24年12月6日（木）10時30分～  
● 場所：徳島市 徳島県森林林業研究所

平成24年12月6日に徳島県森林林業研究所において、森林組合役職員の外、県担当職員も含め、53名の参加を得、「平成24年度第1回役職員（監事）研修会」を開催いたしました。

今回の研修会は、午前中「コンプライアンス態勢の確立について」、農林中央金庫高松支店四国農林水産環境事業部 山田文生部長より森林組合経営者のためのコンプライアンスについてと題して講義して頂きました。山田部長からは、コンプライアンスが求められる時代背景、コンプライアンスと役員の責任、続発する企業不祥事からの教訓等、具体的な事例を挙げて、非常にわかりやすく興味深い研修を行って頂きました。

また午後からは、全国森林組合連合会から荒井兼雄監査士をお招きし、「森林組合監事監査について」講義して頂きました。「森林組合の監査実務テキスト」を用いて監事監査の進め方や監事の職務と留意事項などについて、限られた時間の中で重要事項に的を絞り、解りやすく解説して頂きました。

講義終了後には、参加者から熱心な質問がなされるなど、大変有意義な研修会となりました。

なお、研修会冒頭には、全国森林組合連合会功労者表彰伝達式が執り行われました。

受賞者は下記のとおりです。

- \*役員** 榊野 千秋 氏（木頭森林組合）
- \*職員** 阿佐 尚和 氏（三好東部森林組合）
- \*作業班員** 小藪 賢二 氏（木頭森林組合）
- 岡部 数男 氏（木頭森林組合）
- 竹岡 文男 氏（木頭森林組合）
- 松島 伯祖 氏（徳島中央森林組合）
- 中田 哲司 氏（徳島中央森林組合）
- 粟飯原啓史 氏（徳島中央森林組合）



農林中央金庫高松支店 山田部長



全国森林組合連合会 荒井監査士

# 山と木と緑のフェア2012

## ～第25回とくしまWOODわくわく祭～

今年も「森林・木材利用促進月間」の一環として、県内の森林・林業、木材産業の関係者が連携し、10月20～21日の2日間にわたり「山と木と緑のフェア・徳島WOODわくわく祭」（主催：山と木と緑のフェア実行委員会）が開催されました。

25回目となる今年のテーマは「とくしまの宝・木のある暮らし」として、山の特産品や木製品の展示即売、山と木と緑の情報満載の各展示コーナー、親子木工教室、ラヴ・ウッドオークションなど盛りだくさんなイベントが開催され、本会も徳島県樹木医会とともにブースを出展しました。

さらに、今年は農林中央金庫も参加し、抽選で幼稚園と保育所に木製ベンチと掲示板をプレゼントしていただきました。



■オープニング ログカット式



■プレゼント当選者



## 徳島県知事へ表敬訪問



平成25年1月4日に、徳島県森林組合連合会役員並びに県下の森林組合長が一堂に会し、飯泉嘉門徳島県知事を表敬訪問いたしました。

冒頭、杉本会長より、次世代林業プロジェクトの推進に向けた、「林業飛躍基金」を始めとする様々な林業施策の実施、また、大型製材工場の誘致にご尽力され、A級材の加工流通体制の整備を推進していただいたことに対して感謝の言葉を述べるとともに、4月1日から「徳島県産材利用促進条例」が施行され、更なる県産材の消費拡大が期待されるなかで、山側としても

県産材生産量の拡大に向け、系統一丸となり取り組んで行く旨の決意表明をし、知事には、引き続きご支援・ご指導いただきますようお願いいたしました。

その後、徳島県林業の抱える課題や、今後の展望について意見交換がなされ、引き続きご協力いただけるとの心強いお言葉をいただきました。

# 人は生まれながらに 「人」として生きる権利を持っています。



国際連合は、1948年（昭和23年）12月10日に「世界人権宣言」を採択し、その主旨は「すべての人間は、生まれながらにして自由であり尊厳と権利において平等である」という内容でした。

1966年（昭和41年）「国際人権規約」を採択、「人権の国際基準」を示し地域紛争や、人権侵害、難民問題が取り上げられる中で、世界が「人権」についてよく考えるようになりました。

1994年（平成6年）の総会において1995年から2004年までの10年間を「人権教育のための10年間」と決議しました。以後、各国において積極的に取り組むよう要求しています。

これを受けて、我々森林組合を含む全国農林漁業団体では「人権問題啓発推進事業」を開始し、継続してこの運動を展開しています。

「人権」は永遠のテーマです。わたしたちは人権について学び、かつて採択した「世界人権宣言」の主旨を次の世代へ引き継がなければなりません。

**私たちの身近にひそむ差別や偏見、  
人権侵害につながる人権課題に対する心構えを常に持ち続けましょう。**

**J Forest**

**全国森林組合連合会  
人権問題啓発推進事業**